

第5学年 道徳学習指導案

平成24年1月27日(木) 第5校時
場所 教室 在籍児童数 28名

- 1 主 題 名 支えられていることに感謝して生きる 「2-(5) 尊敬・感謝」
2 資 料 名 ありがとう (出典 彩の国の道徳 「夢にむかって」 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目2-(5)「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。」ことをねらいとしている。第1・2学年では、身近で日頃お世話になっている人々の存在に気づき、感謝する気持ちを言葉や行動に表すことが求められる。第3・4学年では感謝する対象を日頃お世話になっている人々から日々の生活を支えている様々な人々へと広げ、尊敬と感謝の気持ちを持って接することができるように指導してきた。高学年のこの段階においては、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはそのような中で自分が生きていることに対する感謝まで広げることが必要である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校のリーダーとしての自覚が芽生え主体的に働いている児童も多い。また、林間学校では親から自立して社会と関わる体験もしてきた。しかし周囲の人々に支えられて成長してきたことに気づかず、教師など周囲の大人や友達から注意されたときなどに素直に受け入れられないこともしばしばある。厳しい言葉もときには自分のためであることに気づかせ、今まで自分一人の力で成長したのではなく、家族をはじめ多くの人々の支え合いや助け合いによって成長したことに感謝し、それにこたえて自分は何をすべきかを自覚できる児童を育てたい。

(3) 資料について

主人公の由美は、一人でおばあちゃんの家までバスでおつかいに行く。行きのバスの中で、みんなの前で運転手さんに注意されて嫌な思いをした由美。話合い①では、主人公の嫌な思いに共感させたい。話合い②では、帰りのバスでも同じ運転手で嫌だったが、バス停についても迎えが来ずにバスの中で待たせてもらった時の主人公の気持ちを考えさせたい。話合い③としては、貸し切りの表示を見たときに主人公が感じた運転手さんの優しさに気づかせたい。そして話合い④では、行きのバスで由美を注意したことも、帰りのバスで待たせてくれたことも、運転手さんの優しさなのだ気づかせ、そのような支え合いや助け合いに感謝する心を持たせたい。

4 研究テーマに迫るための手立て

- (1) 自分の意見を発表するのが苦手な児童も多いので、安心して発表できるよう繰り返したり他の子に付け加えさせたりしながら本時のねらいに迫れるようにする。
(2) 日頃お世話になっているPTA会長の齋藤さんにGTとして参加していただき、ねらいに迫るお話をしていただくことで、児童の考えをより深められるようにする。

5 本時の学習指導

(1) ねらい

社会の中で多くの人々に支えられていることに気づき感謝し、それにこたえてよりよく生きていこうとする意欲を高める。

(2) 展開

段階	学習活動(主な発問)	予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援のポイント ◎人権教育上の配慮◆評価	時間
導入	1 アンケートの結果を聞く。	・母親 ・家族 ・友達	○意図的に指名をし、ねらいとする価値への方向付けをする。 ◎アンケートのプラス意見から意欲的に学習に取り組めるようにする。	1分
	2 登場人物、条件、		○条件・状況を押さえる。	条件情

と ら え る	状況について知る。 ・登場人物 ・ 主人公「由美」 ・ バスの運転手 ・ お母さん ・条件・状況 ・ おつかいを頼まれた。 ・一人でバスに乗っていくのは少し不安。 ・由美の家は町外れにあるので、バス停までお母さんが車で送ってくれた。		況カード 10分	
	展	3 資料「ありがとう」の範読を聞く。 ・心に残ったところ(友達と話し合いたいところ)を発表する。	○主人公の気持ちの動きを考えながら聞くように話し、集中して聞けるようにする。 ◎児童の感想を中心に柱をたてる。 ◆自分なりの課題をもつことができたか。	
開 深 め る	4 主人公の心の変化を中心に話し合う。 ①自分や高校生に対してきつく注意する運転手に対してどう思ったでしょう。	・「こわい」「うるさい」 ・「そんなにきつく言わなくても。」 ・みんなの前で注意されてははずかしい。	○人前できつく注意され、はずかしい思いをした主人公の気持ちを共感しながら考えさせる。	場面絵
	②バスの中で待たせてもらった時、由美はどんなことを考えていたでしょう。	・おこられると思ったけど、意外とやさしい人だな。 ・あったかいな。 ・一人で待たなくてよかった。 ・私一人のためにいいのかな。	○むかえがこない心細いときに運転手さんから声をかけてもらい、バスの中待たせてもらえほっとする主人公の思いに気づかせる。	場面絵
	③貸し切りの表示を見て、母と顔を見合わせて、どんなことを話したでしょう。	・私一人のために、バスを使わせてくれたんだ。 ・なんて優しい人なんだろう。	○ペアで役割演技をすることで、全員が意見を言えるようににする。 ○由美のために貸し切りにしてくれた運転手さんに感謝する気持ちを押さえる。	
	④朝のできごとを思い出し、由美はどんなことを考えたでしょう。	・朝の注意も私たちのことを考えて注意してくれてたんだな。 ・優しい言葉だけが、本当の優しさではないんだ。 ・注意してくれてありがとう。	○主人公の気持ちをシートに書かせることにより、きつく注意してくれたことも、運転手さんの優しさから出たことに気づかせる。 ◆運転手さんの行動が、一貫して自分たち乗客に対する優しさからの行動であることに気づき、感謝の気持ちを持ってたか。	プリント
み つ め る	5 自分の生活を振り返る。	・生活を振り返り、感謝する人について考える。	○感謝する対象は母親や家族だけでなく、いろいろな人に広げられることに気づかせる。	25分 2分
ま と め る	6 ゲストティーチャーとして、PTA会長さんの話を聞く。	・いろいろな人に支えられているんだな。	○PTA会長さんのお話を聞き、地域の人々にも支えられていることを感じ、それにこたえようとする意欲を高める。	2分

6 評価の観点

・社会の中で多くの人々に支えられていることに気づき感謝し、それにこたえてよりよく生きていこうとする意欲を高めることができたか。
 (発言・観察・ワークシート)